

デザインコンペ in 三河安城 コンペ概要

概要

三河安城駅周辺における「市民とともにまちをつかってつくる協創のまちづくり」の実現に向け、みんなで大好きなまちをつかいたおすアイデアを募集します。

優秀作品に選ばれた提案は、本市が作成する「デザインブック」(本誌)においてまちのデザインやまちのつかい方として位置づける前提で検討します。

テーマ

みんなでまちをつかいたおせ!

定刻通りに通過させない、多目的交流拠点(アリーナ)を活かした協創のまちづくり

まちのデザイン部門

将来みんなでつかい続けたい「まちのデザイン」のアイデアを募集します。

▼ 求める事項

1. 対象区域全体のデザインコンセプト
2. 必須提案場所の機能や設え、デザイン
3. 人が「2」をつかっている様子
4. 「2」の機能や設えの実現化方策

▼ 提案場所



提案の対象は、都市再生整備計画(三河安城マチナカ協創地区)の区域(区域図青枠)としますが、対象区域全体のデザインコンセプトの実現に向けた機能や設え、デザインの提案においては区域図赤枠で示された範囲の提案を含めることを必須とします。

- 最優秀賞: 賞金 30万円(1作品)
- 優秀賞: 賞金 10万円(2作品)
- オーディエンス賞: 5万円(1作品)

場のデザイン部門

まちをつかう活動を引き出す仕掛けとなる短期的に実現できる「場のデザイン」のアイデアを募集します。

▼ 求める事項

1. 場のデザインコンセプト
2. 機能実装のイメージと説明
3. 設置・運営に係る基本的な考え方、計画

▼ 提案場所



提案の対象は、新幹線三河安城駅北口側の「三河安城暫定広場及びマチナカプレイス1」(区域図参照)とします。

- 最優秀賞: 賞金 30万円(1作品)
- 優秀賞: 賞金 15万円(1作品)
- オーディエンス賞: 5万円(1作品)

まちをつかう部門

まちの新たな魅力や価値を生み出す「まちをつかう」アイデアを募集します。

▼ 求める事項

1. コンセプト
2. あったらいいなと思う機能やつかい方のイメージと説明
3. 実現方法(誰がどのような手段で実現させるか)

▼ 提案場所



提案の対象は、都市再生整備計画(三河安城マチナカ協創地区)の区域とし、広く公共空間や民地等も可能とします。(例: 三河安城暫定広場やマチナカプレイス1、駅前広場、連絡通路、道路、駐車場、高架下空間、ツインパーク等)

- 最優秀賞: 賞金 5万円(1作品)
- 優秀賞: 賞金 3万円(1作品)
- オーディエンス賞: 1万円(1作品)

スケジュール

事前登録期間

2022年7月22日(金)～9月30日(金)

キックオフイベント

2022年8月17日(水) 場所: ホテルグランドティアラ南名古屋

募集期間

2022年10月3日(月)～10月28日(金)



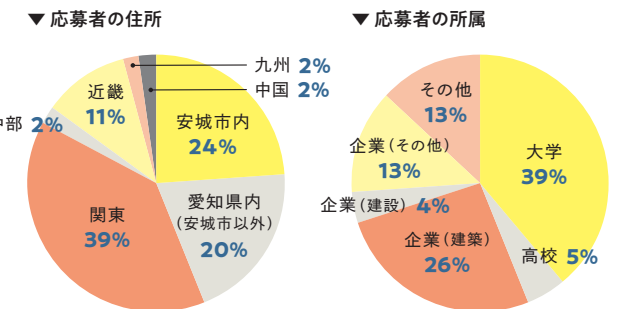
1次審査

11月上旬

多数の応募作品から、2次審査へ進む作品を審査員による熱い議論で決定!

1次審査では、各提案者のまちに対する想いを踏まえ、三河安城にとっての作品を2次審査に進め、各提案者と意見交換することが有意義について、審査委員による熱い議論が交わされました。応募資料をもとに審査を実施し、2次審査へ進む、計14作品(まちのデザイン部門:4作品、場のデザイン部門:5作品、まちをつかう部門:5作品)が選出されました。

まちのデザイン部門	全19作品	応募件数 合計 52作品
場のデザイン部門	全21作品	
まちをつかう部門	全12作品	



公開プレゼンテーション・2次審査

12月17日(土)

場所: へきしんギャラクシープラザ

熱い想いが込められたプレゼンを受け、投票および審査により各賞が決定!

新型コロナウイルスの感染状況などを鑑み、審査会場とオンライン配信を組み合わせたハイブリット形式による開催。三河安城のまちに対する想いが込められた作品と、提案者の熱いプレゼンテーションに、審査委員からも活発な意見が飛び交いました。視聴者も参加可能なオンライン投票によって「オーディエンス賞」を決定したほか、質疑応答・審査を経て、3部門の各賞を決定しました。



審査委員

吉村輝彦(審査委員長)

日本福祉大学
国際福祉開発学部
国際福祉開発学科 教授

田中元子

株式会社グランドレベル 代表

野原卓(審査副委員長)

横浜国立大学大学院
都市イノベーション研究院 准教授

鈴木美央

オープラスアーキテクチャー
合同会社 代表

名畑恵

NPO法人まちの縁側育くみ隊 代表理事
錦二丁目エリアマネジメント株式会社
代表取締役

沓名俊裕

安城商工会議所 会頭

三河安城のまちづくりのこれから

コンペを通じた気づきと、大切にしたい価値観

「デザインコンペ in 三河安城」では、1次審査での激論が印象的でした。

その際、特に論点となったのが、「誰をターゲットとしたまちづくりを評価するのか?」という点でした。主なターゲットとすべきなのは、多目的交流拠点(アリーナ)を目的地として訪れる来訪者なのか、地域で生活する人や活動者なのか。審査では、「来訪者の消費」は大事であるが、コンペのテーマである「みんなでまちをつかいたおせ!」に忠実なのは、地域で生活する人や活動者をターゲットにした提案ではないか、と結論づけました。

年間30日程度の興行時に合わせて、まちをデザインするよりも、過ごす時間が長い日常に合わせて、作り出す風景や人と人とのつながりも含めてデザインする。それが、三河安城駅周辺のまちづくりにとっては、より大事なのではないかという気づきがありました。

また、審査で印象的だったのは、「まちの中にいる人が生き生きしていることが、外の人にとっても魅力的に感じられるものになる」というメッセージでした。

いくら整備をしても、それがつかう人のニーズに合うものでなければ、持続的なまちづくりにはつながりません。「つかってつくる、キョウソウのまちづくり」という新たな挑戦を続けていくことの重要性を再認識させられました。

これからのまちづくりの方向性を示すヒントや価値観

- 初めからすべてをつくり込まない。つかい、試しながらつくる。
- まちの変化に応じ、柔軟に対応できる可変性を備えた空間や可動式ファニチャーなど、今あるものを活かす。
- 夜の在来者への配慮。現状では夜の活動を取りこぼしている。
- 提案の中で、すぐにできることはある。すぐにやる。いろいろな提案者とのコラボもありえる。
- 自転車を活用したまちづくりを進める。
- 明治用水緑道を活かし、三河安城の賑わいを波及させる。
- 景観デザインガイドラインについては、民間の事業者への働きかけが大事。
- まちをつかってつくるプラットフォームの整備は長いプロセスとなるため、多くの人を巻き込む場が重要である。
- 火やスケボーをつかった活動、明治用水の開渠など、賛否両論がありこれまで見送ってきたアイデアを議論することにも価値がある。

作品や審査を通じて、これからのまちづくりの方向性を示す、多くのヒントや価値観が共有され、それらを踏まえて審査できたことも大事な成果だと思います。

今後は、これらの提案を踏まえ、地域の活動者をはじめ関わりある人々と対話しながらまちづくりを進めていくことが大切だと考えます。意見が丸くなり、ありきたりでつまらない議論にならないように、賛否両論あるなかでも自分ごととして決められるプロセスを工夫し、誇りあるまちづくりを進めていきます。

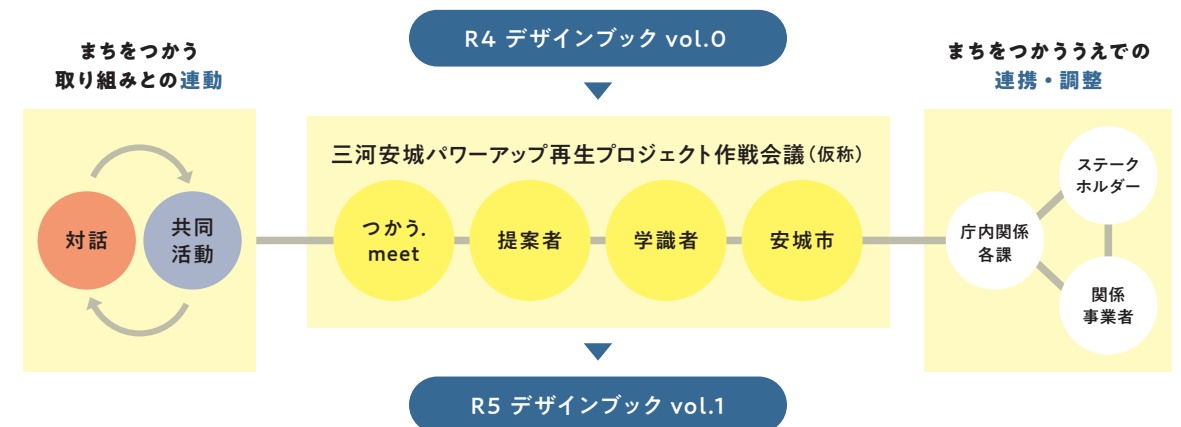
今後のまちづくりの進め方

今後、まちづくりを進めるうえでは、本書「デザインブック vol.0」を出発点に、三河安城駅周辺のまちづくりをどのような方向性で進めていくべきかの議論を継続させ、まちづくりのビジョンをみんなで共有するための「デザインコンセプト」を掲げることが求められます。

デザインコンペの提案者をはじめ、これまでまちをつかう活動を先導的に実践してきた「つかう.meet」や、専門家である学識者、安城市などによって構成される「三河安城パワーアップ再生プロジェクト作戦会議(仮称)」を立ち上げ、議論を重ねていくことを予定しています。

この作戦会議において、継続してさまざまな立場から意見を交わし、2023年度末には、デザインコンセプトを掲げた「デザインブック vol.1」をまとめることを目指します。

また、2026年の多目的交流拠点(アリーナ)開業に向けて、三河安城駅周辺で具体的に何を行うのか、また誰が、どのように、どんなスケジュールで進めていくのかなど具体的なアクションについても、必要に応じて議論していきます。



審査委員・司会者総評

※所属、役職は2022年12月時点

吉村輝彦

日本福祉大学 国際福祉開発学部
国際福祉開発学科 教授



ミライの芽吹きを感じる。触発され、自分も何かやってみたくなる。いいな、ぜひ一緒にやってみよう。そんな想いが巡る瞬間をともにつくっていったことがうれしく感じました。自分が面白がってこそ、動きが生まれます。この機会を出発点に、もっともっと妄想していきましょう。アイデアが実現していくプロセスも楽しみながら。

名畑 恵

NPO 法人まちの縁側育くみ隊 代表理事
錦二丁目エリアマネジメント株式会社
代表取締役



大きな視野も、足元の課題意識も、自分たちの暮らしと未来の地域がつながるすてきな提案が多かったです。特に、生活者発想や地域の骨格な読み方、高校生たちの真摯さにはハッとさせられました。地域外の「風の人」も、地元の「土の人」も集まったコンペから、豊かな風土デザインに向けて、今後も目が離せません。

鈴木美央

オーブラスアーキテクチャー合同会社
代表



自分を起点にしたこの人だからできる提案に、三河安城で暮らす人々への優しさがあふれ、感動しました。その優しさの形もそれぞれ違う、まちってやっぱり面白いんだよなと思わせてもらいました。次はこの提案を実現することができれば、どんどんまちは面白くなっていく、そう思わせてくれるようなコンペでした。

TESHI

公開プレゼンテーション司会
Pitch FM パーソナリティ
つかう. meet メンバー



多くの作品と提案者のプレゼンを間近で見聞きして、ワクワクが止まりません。まちのつかい方の考えも、どれもどこかで採用されてほしいと生活者目線で見えていました。これをきっかけに活発な議論が生まれ、安城らしい、西三河らしいまちになっていく気がしてたまりません。

野原 卓

横浜国立大学大学院
都市イノベーション研究院 准教授



デザインコンペ in 三河安城の取り組みは、この地に関わるすべての人にとって、みずみずしく、生き生きとしたまちに暮らし・営み・集うことを考える、貴重な第一歩だったと思います。「まちをつかう」「場のデザイン」「まちのデザイン」という3つのフェイズで、高校生から専門家までさまざまな立場で議論し合えたことそのものに価値を感じました。この実りをそれぞれが持ち帰り、さまざまな形でアップサイクルしてゆくことを期待します。

田中元子

株式会社グランドレベル代表



新幹線が止まる、という大きなアドバンテージを持ち、いよいよその応用発展のタイミングに差し掛かった、現在の三河安城駅界隈。さまざまな角度からこのまちを見つめて再発見し、これから人間は、自分は、ここでどう生きていくのか、と解像度を変化させながら今後は熱く模索する、エキサイティングなコンペとなりました。

沓名俊裕

安城商工会議所 会頭



提案者のあふれる熱意に感動しました。地元には気づきにくいコトやモノに着目した提案に驚くとともに、まちづくりは美しい景観や施設を整備する以上に、多くの方々に安心安全に利用してもらえよう、みんなで作って上げていくことが大切だと審査を通じて実感しました。これからさらに変化していく三河安城と一緒に盛り上げていきましょう。

松岡里奈

公開プレゼンテーション司会
国土交通省都市局街路交通施設課
街路交通施設企画室 駅まちづくり係長



安城市に関わるみなさんがいかにまちを「ジブンゴト」として捉えているかを実感し、感銘を受けました。一つひとつの提案がつながってすてきなまちになっていくのだろうと今からわくわくします。

おわりに

「デザインコンペ in 三河安城」にご参加いただいた皆様、審査委員の皆様、ご協力いただいたすべての皆様に、まずは心よりお礼申し上げます。

すべての提案作品には、おそらく寝る間も惜しんで制作した提案者の皆様の深い思考や想いがあふれており、どれも甲乙つけがたいものでした。その中で、最優秀作品、優秀作品として選ばれたアイデアには、いっそうの重みがあると感じています。

本コンペで重視したのは、デザインの手さきではなく、そこにどんな人がどのように関わる仕組みを提案できるかであり、特に自分でやるんだという想い、自分ごととして捉えた熱意が伝わる提案が高く評価されました。どんな結果となるのか正直怖い部分もありましたが、審査委員の皆様には我々が気づけなかった点を審査・評価していただいたことに感謝申し上げます。

また、すべての作品が、審査での議論、提案者と審査委員とのやりとりなどを通じて、我々に多くの気づきを与えてくれただけでなく、コンペという競争の場でありながら、参加したすべての人にとって豊かな学びの場となったのではないかと感じています。

外からの客観的な視点、幅広い視点からの意見に触れることで、改めて「人」中心の新しいまちづくりの大切さや、当たり前にあって見えにくくなっていった地域資源を再認識するとともに、皆様の想いをコンペだけで終わらせず、実現させていかなければならないという決意を固めました。

大きな感動を生んだデザインコンペと、三河安城を想う人々の存在に、このまちのポテンシャルを感じています。そして、本書「デザインブック vol.0」を出発点として議論を重ね、皆様と一緒に協創のまちづくりを進めるべく、行動に移していきたいと考えています。

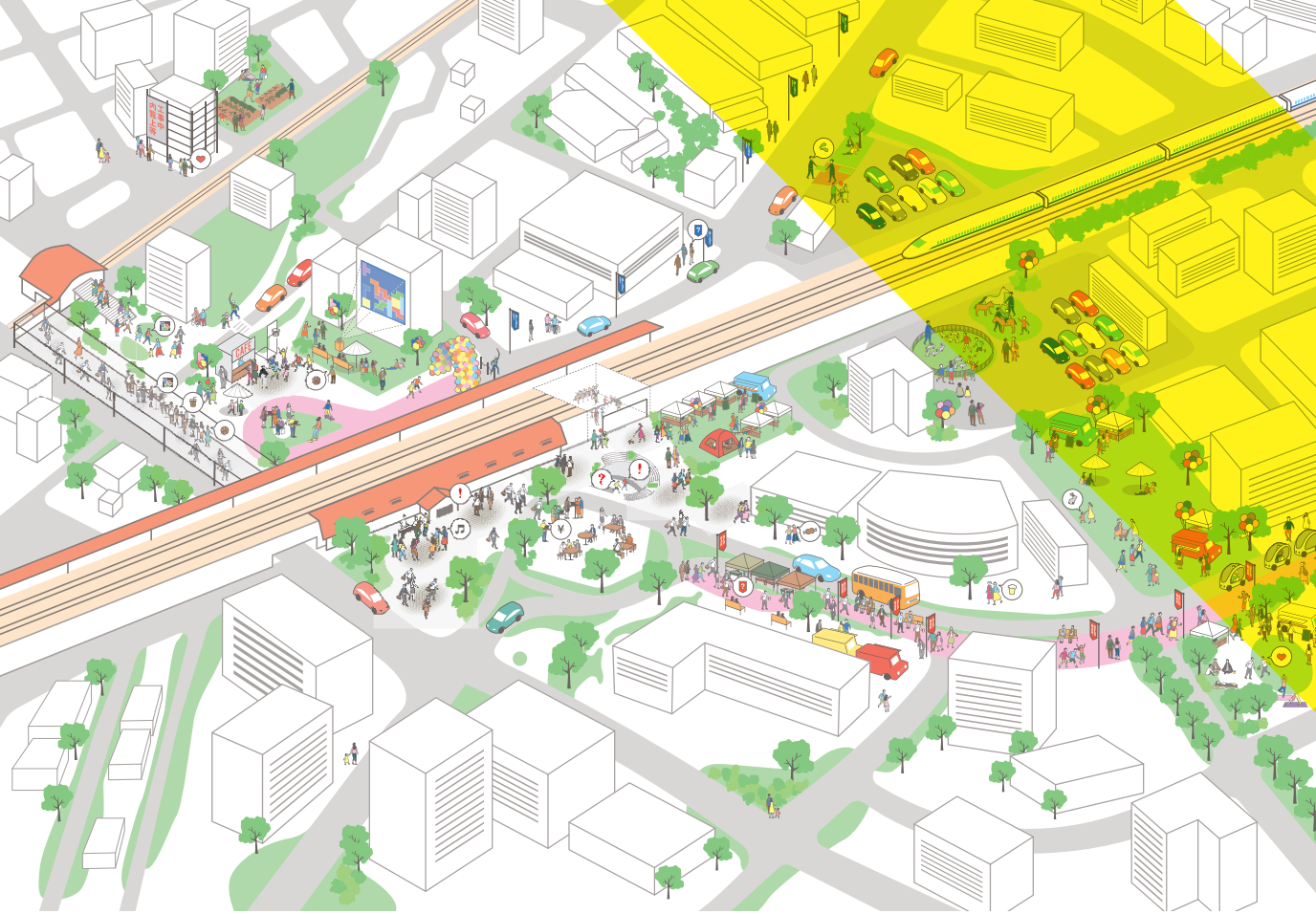
これから、さらに加速していく三河安城駅周辺のまちづくりを、みんなで考え、一緒につかい、つくっていきましょう！

安城市都市整備部都市計画課拠点整備係
〒446-8501 愛知県安城市桜町18番23号
TEL: 0566-71-2243 FAX: 0566-76-1112
E-mail: toshikei@city.anjo.lg.jp

2023年3月発行
発行：安城市
協力：つかう.meet

企画・編集：
株式会社国際開発コンサルタンツ
公益社団法人日本交通計画協会
編集・デザイン：株式会社リライ
cinta.

協創のまちづくりについて：<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/machidukuri/toshikeikaku/kyoso/index.html>



DESIGN COMPETITION IN MIKAWAANJO

デザインコンペ in 三河安城